

# 応用ミクロ経済論

担当者 鎌苅 宏司

開講時期 前期 単 位 2

## ●講義の概要

ミクロ経済学は、現実の社会問題を解明するための有効な理論的武器です。

例えば、公共サービスの提供や地域活性化に不可欠な経済取引の活性化などは、地域の維持・発展に関わる重要な研究対象です。

本講義では、これら諸問題の解明にミクロ経済学がどのように適用され、それがどの程度有効なのかを考えることで、ミクロ経済理論の適切な応用を学びます。

## ●講義の到達目標

いくつかの社会問題を具体例として、その解明にミクロ経済学を用いる方法を解説します。その過程で、受講生がミクロ経済学を活用できる能力を修得することを目標とします。

## ●講義計画

1. 経営学との違いと経済学の考え方: 自己愛とインセンティブ・機会費用・トレードオフ・情報の非対称性・最適と次善・均衡・社会的余剰
2. 需要と供給: 市場均衡
3. 消費者の行動分析
4. 生産者の行動分析
5. 完全競争市場と不完全競争市場
6. 市場取引の効率性とパレート最適性
7. 余剰概念とその応用: 租税と補助金
8. 市場の失敗: 公共財
9. 市場の失敗: 外部性
10. 公共サービスの供給と需要: 社会的共通資本
11. 価格戦略: 二部料金制など
12. 製品戦略: 製品差別化など
13. 情報の非対称性と逆選択・モラルハザード
14. 行動経済学と文化経済学
15. 「公」と「私」の問題

## ●成績評価基準と方法

成績評価の基準は、定期試験（レポート試験）100%です。

成績評価の基準は、具体的な社会問題についてミクロ経済理論を用いてその望ましい解決策を提示することができるか。

## ●テキスト又は参考文献

参考文献

寺井公子・肥前洋一『私たちと公共経済』有斐閣ストゥディア、2015年

村田安雄・鎌苅宏司『ミクロ経済学から公共経済学へ』八千代出版、2000年

丸山雅祥『経営の経済学 [第3版]』有斐閣、2017年

Gruber, Jonathan Public Finance and Public Policy [4<sup>th</sup> ed.] Worth、2013年

大垣昌夫・田中沙織『行動経済学』有斐閣、2014年

教材は、適宜配布します。

## ●受講上の留意点

学部レベルの入門ミクロ経済学から中級ミクロ経済学の知識を前提としていますが、初学者にも適宜対応しますので、履修時にその旨を申し出てください。

経済学は、そこで用いられる方法論（ミクロ経済学やマクロ経済学）で定義されます。これが、研究対象で定義される経営学と大きく異なる点です。このことを踏まえて、受講してください。